2016（平成28）年10月2日　第41号

福島教区報

天理教福島教務支庁
〒960-8022 福島市新浜町7番26号
TEL 024-534-2251 / FAX 024-534-2404

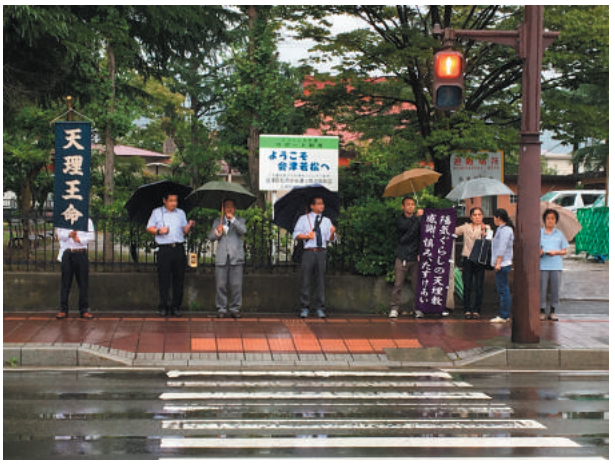
教会数　123ヶ所
布教所数　113ヶ所
よふぼく数　3461人
（R178.12月末現在）

全教一斉にをいがけデー

～一人でも多くのようぼくの実動を～

9月はにをいがけ強調の月
28日は「教会長路傍講演の日」
28日～30日はようぼくの実動日

1月26日に教祖百三十年祭がつとめられ、その後は普段の地道で継続的な動きとなった本年。三年千日の年祭活動で培ったおたすけ活動の勢いが途切れることなく生かされていくよう、諸活動が進められていく中、9月の「にをいがけ強調の月」を迎えた。各支部では、人材育成の思いを交えながら計画を立てて、28日から30日の「ようぼくの実動日」に臨んだ。



会津支部（間宮信雄支部長）では、28日は會津分教会に集合後、それぞれに戸別訪問に回り、29日に教会長路傍講演を実施。これは28日では、まだおぢばから帰ってきてない教会長もいるので、実施日を1日ずらしたため。当日は雨天のため、大町中央公園前まで車で移動し、路傍講演を中心に行った。

30日には、会津美里町の本郷地区へ出かけていき、戸別訪問。前日までとうって変わって晴天の下、それぞれにリーフレットを手に、割り当てられた区域で、親神様の教えを伝えるべく、1軒1軒、丁寧にまわった。

（Z・F）

少年会

少年ひのきしん隊本部練成会

今年も、少年ひのきしん隊本部練成会に、福島教区団（近藤直光団長）より隊員8名（男子4名、女子4名）、カウンセラー4名の計12名で参加させていただきました。

今年は年祭の年でもあり、「教祖百三十年祭こどもおぢばがえり」と銘打って開催されました。例年よりも期間が1日長くなり、後半隊で参加のため、隊員たちの疲労などを心配しておりましたが、親神様、教祖のご守護をいただき、大きな病気や怪我もなくつとめられたことは、誠にありがたいことでした。

期間中、猛暑の中でも、隊員一人ひとりが大きな声で、「美味しいお茶どうぞ。」「冷たいお茶どうぞ。」と、最終日までおぢばに帰ってきた人たちに、ひとときの安らぎを感じていただけるよう、元気にひのきしんに励ましていただきました。

その中でも、心を合わせて頑張った一つに、「行進コンテスト」がありました。県内の名所・観光などをアピールしての行進は見事でした。

最終日は、事後研修として長島スパーランドにて、思い思いの乗り物で楽しみ、疲れも忘れることができたと思います。（N・K）

【参加隊員】

田村支部　荒井　さわ（2年）
郡山支部　國分　善之（3年）
耶麻支部　二瓶　胡桃（3年）
　　二瓶　幸斗（1年）
会津支部　間宮　悠大（3年）
　　渡部　史照（2年）
　　間宮　裕理（1年）
　　古川　美織（1年）
カウンセラー　矢部　秀樹（南春）
　　平澤　真衣（田村）
　　木島　成美（君福）
　　青田　菜緒（原町）

道の教職員の集い

「道の教職員 夏の集い」3名参加

8月7、8日、おぢばで「第59回道の教職員夏の集い」が開催され、701名が参加した。福島教区からは3名が参加した。

今年は年祭の年ということで、9年ぶりに真柱様よりお言葉をいただいた。真柱様は、「教祖のひながたこそ、人を教え導く立場にある者が特に心得ておかなければならない尊い手本」と述べられ、ひながたをより一層学んで、それを心の拠り所に成人の道を歩むことを促された。

その後、万田酵素の松浦新吾郎氏や、「夜回り先生」で有名な水谷修氏の教育講演、9グループに分かれての分科会、参加者の信仰体験を聞く「なるほど講話」など研修を進め、今後の職務や生活に生かすことを心に決めておぢばを後にした。（Z・F）

学生会

「WORK&TALK」予定を変更して開催

学生担当委員会（杉澤元和委員長）では、8月29日より30日まで大学生の集い「WORK&TALK」を開催。当初、岩手教区が会場だったが、台風10号の影響で道中の安全が確保できないとの恐れから、急遽、宮城教区と合同での「ミニ東北ブロックWORK&TALK」を宮城県の秋保温泉にて開催。学生5名、担当者6名（内、福島教区は学生3名、担当者2名）が参加した。

自然気象による急な変更ということで、テーマを「起こってくる事柄の神様の思いと心の受け止め方」とし、「三面鏡」などのアクティビティなどを通しながら、お互いの親睦を深めるとともに、身におこる全ての事柄から神様の思召を求めていく姿勢を学んだ。

参加した学生は、「楽しかった。」「前向きに考えられるようになった。」など、参加しての喜びの声が聞かれた。（K・K）

青年会

「東北ブロック大会」に8名参加

9月3日から4日、宮城県仙台市で「青年会東北ブロック大会」が宮城教区担当で開催され、福島教区青年会（牛坂直之委員長）から会員8名が参加した。

仙台市荒浜の東日本大震災慰霊碑に東北各地から集まった参加者は、まずハートクリーン活動として、その周辺のゴミ拾いを行った。震災から5年以上の月日が流れ、海岸には当時の凄惨な様子は無く、代わりに海岸には、沢山の遊びの置き土産が散らばっていた。市議会議員の方や自治会長が来て労いの言葉もいただき、参加者一同、一手一つに活動をさせていただいた。

夜の親睦会でお互いの意見を交換し合い、おぢばから遠く離れた東北の地で絆をさらに強くし、協力しあうことを確認した。（N・U）

厚生部

「依存症とそのおたすけ」研修会を開催

厚生部（斎藤容久部長）は、7月2日教務支庁にて、依存症たすけあいの会・鈴木顕太郎代表を講師に「依存症とそのおたすけ」をテーマに研修会を開催した。

依存症の基礎知識として、依存症は脳の病気であり、特徴は遺伝的要素が大きく、物質依存・行為依存・人間関係に依存（共依存）の3つのタイプがあること、依存症の本質はコントロール障害であり、完治はしないがやめている生活を続けることで回復可能な病気であることを説明した。

「大酒飲みとアルコール依存症の違い」「パチプロとギャンブル依存症の違い」等の興味ある事例や、経験を通しての失敗談を交え、依存症の問題には「愛情を持って手を放す」ことの大切さ、依存者に巻き込まれている感情を取り戻すことの大切さを訴えた。

その手段として世界で一番活用されている「自分を超えた『偉大な力』がこの世にはあるという考え方」であるプログラムを天理教教義にあてはめて考え、親神様の大恩に目覚め、互いにたすけ合う世界を目指すことが大切であり、寄り添う心をもって、おたすけにかかることの必要性を説いた。（Y・H）

災救隊

仮設住宅で「教区訓練」を実施

災害救援ひのきしん隊（生江一行隊長）は、7月2、3日に教区訓練を実施した。2日は、二本松市の杉内多目的広場（浪江町仮設住宅）で、隊員14名、自治会の方1名が参加、3日は、安達町の安達町運動場（浪江町仮設住宅）で、隊員25名、自治会の方7名が参加した。

雨の予報も出ていたが、何とか大きく崩れることなく、仮設住宅周辺の清掃及び草刈りを予定通り進めることができた。

当日は、田中豊一本部主事も視察に訪れる中、隊員はお互いに声を掛け合い、周りを確認しながら、草刈機で生い茂った草を刈っていき、終了後は見違えるほどきれいになった。

青年会

「ハートクリーン強調デー」実施

青年会（牛坂直之委員長）では、7月5日を中心に各支部で「ハートクリーンキャンペーン強調デー」を実施した。

毎年この時期に開催されている強調デーだが、今年は、前日からの予報通り、あいにく雨天の中の作業となった。そのためか、参加人数も、例年に比べやや少ない中であったが、作業開始の頃には小降りになり、中止になることなく作業を終える事ができた。そのことに対しても、一同喜びながら活動することができた。

「このハートクリーンキャンペーンは教区青年会の主活であるので、これからも、各支部委員長と共に頑張っていきたいです。これからもご指導ご助力の程を宜しくお願い致します。」（牛坂委員長）　（N・U）

支部	日時	場所	内容	総数	会員
福島	7月11日	ＵＦＯの里	草刈り	26	1
安達	7月20日	安積分教会周辺	ゴミ拾い	35	5
郡山	7月12日	郡山駅前	ゴミ拾い	31	3
田村	7月4日	みはるの里	ゴミ拾い	13	0
会津	7月5日	おおるり公園	植樹・除草	35	2
耶麻	7月5日	おおるり公園	植樹・除草	19	2
いわき	7月5日	特老せいざん荘	草刈り	46	5

道の教職員の集い

「総会」「きょういく講演会」開催

道の教職員の集い（古川善一代表世話人）は、7月10日、いわき市社会福祉センターで「きょういく講演会」を開催、24名が参加した。「親として子供の困り感にどう寄り添うか」をテーマに、発達障害を持つ子供にどのように対応するかを天理小学校教諭・田中直行先生が講話をした。

まず、発達障害とは「発達の凸凹であり、それがために社会的に適応できないことである」と定義した。そして、①不注意②衝動性③多動といった特徴を持つADHD（注意欠如多動症）、さらに①想像力の障害②社会性の障害③パニックといった特徴を持つASD（自閉症スペクトラム障害）について、それに対する対応などを、具体例を交えながら話された。特に「褒める」ことの有効性、「教えて褒める」といった接する際の順序を確認することができた。質疑応答でも質問に丁寧に答えていただき、ありがたかった。

また、「きょういく講演会」に先立ち、同会場で、教区長先生のご臨席をいただき、道の教職員の集いの「総会」が開催され、3名の会員が参加した。議事の後には、田中先生より講話をいただいた。先生は「道の教職員として、地域でできること、役立つことがないか、徳分を生かして活動してほしい。」と、それぞれの地域で工夫して活動することを提起された。

（Z・F）

道の教職員の集い

「成人塾」開催

道の教職員の集い（古川善一代表世話人）は、8月16日から17日、福島教務支庁を会場に「成人塾」を開催。中学生3名、小学生9名、スタッフ4名が参加した。

参加者は、揃ってお願いづとめをつとめた後、早速、夏休みの課題などを手に机に向かった。今年は事前に、それぞれの学習計画表を提出してもらい、それに沿って学習が進められた。

午後は、神殿でおつとめの鳴物を熱心に練習した後、再びそれぞれの課題に取り組んだ。

食事も、参加者全員で協力して準備をし、自分達で作った食事をおいしくいただいた。

翌日も、再び学習の時間。夏休みの課題が終った子は、苦手なところを集中して勉強したり、2学期の予習をしたりした。

（Z・F）

学生会

高校生の集い「まなびば in 猪苗代」開催

学生担当委員会（杉澤元和委員長）では、8月18、19日、国立磐梯青少年交流の家を会場に高校生の集い「まなびば」を開催した。

台風一過でまだ暑さ残る中、今年は少年会キャンプ練成会と同催され、カレー作りや花火を少年会員と共に楽しみ、また自然にふれるアクティビティを通して、身体の不思議な働きを感じた。

国分一志副委員長の講話では、「かしもの、かりもの」を具体的な数値や例え話を交えて話し、学生は、親神様のご守護を学ばせていただいた。

参加学生6名の内、半数がお道を知らない学生で、学生、スタッフ共に教祖に導かれ、親神様の思召を感じさせていただける場であった。（M・S）

少年会

「キャンプ錬成会」で自然を満喫

少年会（近藤直光団長）では、8月18日～19日にかけて、国立磐梯青少年交流の家に於いて、晴天のご守護のもと、「親子キャンプ」を開催し、少年会員15名、育成会員4名が参加した。

今回は初の試みで、学担と合同で大学生や高校生と少年会員が交流を深める中、初日は野外炊飯（カレーライス）を一緒に作ったり、夜は花火大会を行ったりして、楽しい時間を過ごした。また、夕づとめ前にはおつとめ練習をしたりと、充実した内容で行わせていただきました。

翌日は、楽しみにしていた「魚つかみ」をし、自分達のつかんだ魚を焼いてもらい、それをおかずに昼食をとり、解散となりました。

（N・K）

青年会

「本部委員巡回」

8月20日、青年会（牛坂直之委員長）では教務支庁で「本部委員巡回」を受け、教区委員、支部委員長をはじめ会員ら12名が参加した。

まず、谷川道春本部委員が、平成30年に迎える青年会創立100周年へ向けて、今後の動き、青年会員としての心構えなどを話し、「心を動かせ　世界を拓け」のスローガンに沿って一人ひとりがこの旬に成人することを促された。

続いて、参加者はねりあいを行い、まずは、立場をいただくお互いがまず率先実動することを確認した。（N・U）

基礎講座

去る、9月22日（木・祝）、いわき市のラトブ6階セミナー室を会場に『第20回基礎講座・福島会場』（講師・平澤勇一先生）を開催し、47名が受講した。秋の彼岸の中日、また雨天という中ではあったが、「天理教基礎講座」のポスターを見て受講された方もおられ、会場は多くの人で賑わった。

ビデオと講話で分かりやすく天理教の教えを紹介し、「もう少し詳しく聞いてみたい。」との感想を述べる方もおられた。（K・K）

天理教基礎講座（福島会場）
11月13日（日）午後1時30分開講
福島テルサ
講師・柏木大明先生（東中央大教会長）

学生会

「道の学生　ひのきしんDAY」開催

学生会（西妻貴明委員長）では、9月18日、「道の学生ひのきしんDAY」を開催、5名が参加した。

当初、ゲーム性を持たせてのゴミ拾いを計画していたが、残念ながら雨のため、教務支庁内の窓拭きへとひのきしん内容を変更しての開催となった。

前からの知り合いも少なくなかったが、すぐにみんな馴染んで、ひのきしん後は、昼食をとりながら楽しく懇談した。（T・N）